

平成30年度 消防本部 施策展開方針 計画書

1. まちづくり政策（消防本部関係分）

| | | | | | | | |
|---|--|--------------|--------------|--------------|--------------|-----------|--|
| 政策 04 安全・ 安心 | 政策展開の方向性 | | | | | | |
| | 交通安全や防犯活動の推進、生活衛生環境や冬季生活環境の充実などを通じて安全で快適な社会環境を築いていくとともに、地域防災力の向上や消防・救急体制の充実を図ることにより、災害に強く、だれもが末永く安心して暮らせるまちづくりを進めます。 | | | | | | |
| 平成30年度に向けての展開方針（方針や重点事業の計画等を記載） | | | | | | | |
| 04-03 消防・救急の充実 | | | | | | | |
| <p>複雑多様化、高度化する消防需要に的確に対応し、市民の安全・安心を確保するため、第6次江別市総合計画の個別計画である「江別市消防10か年アクションプラン」に基づき、平成30年度は次の取組を実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防組織体制の充実では、効率的な業務執行体制の確立のため人材育成を更に推進する必要があることから、新たに定めた「消防職員人材育成基本計画」により、消防活動に必要な大型自動車免許や小型船舶操縦士免許などの各種資格取得や救急隊員資格者の計画的な養成は継続しながら、より高度な消防教育機関である消防大学校や先進都市などに研修派遣を行い、指導的立場の職員の養成や災害対応力の向上のため若手職員の育成に努めます。 ・消防施設等の整備では消防車両・安全装備品の更新整備や消防庁舎の長期保全に向けた改修計画を策定し、地域防災力の向上のため消防団や関係団体等とのより一層の連携強化を図るとともに、女性消防団員等が地域に密着した活動が行えるよう支援をします。 ・救急体制の充実では、若年層からの応急手当普及啓発や救急車の適正利用の意識付け、また、自治会などで市民自らが指導できる応急手当普及員の育成促進を図るため、児童・生徒を対象とした救命講習会や市民等を対象とした応急手当普及員講習を行います。 ・火災予防対策の推進では、火災の出火防止対策として、火災予防運動などを通して原因別にみた予防広報を行うとともに、自治会や高齢者クラブに対する出前講座を推進し、市民の防火意識啓発を図ります。さらに、火災による被害軽減策として、住宅用火災警報器が本体交換の時期を迎えているため、適正な維持管理を中心とした広報を展開するほか、高齢化社会に対応するため、地域の協力体制の強化を目的とした研修会を開催し、自治会や民生委員並びに防火クラブなど民間防火組織との連携を図ります。また、事業所に対しては自主的な防火管理・保安管理体制の推進を図ります。 | | | | | | | |
| | 単位 | (初期値) | H26年度 | H27年度 | H28年度 | 目標 | |
| 安全で衛生的な生活環境が整っていると思う市民割合 | % | 78.2 | 79.3 | 82.2 | 83.1 | ↗ | |
| 災害対策が充実し安心と思う市民割合 | % | 52.1 | 50.7 | 52.5 | 56.3 | ↗ | |
| 消防・救急活動に満足している市民割合 | % | 89.5 | 93.1 | 93.4 | 93.2 | ↗ | |
| 消防本部が所管する個別計画または重点事業の進捗状況 | | | | | | | |
| 「救急隊員養成事業」 応急手当指導員 (一般救急隊員+救急救命士) | 人 | 81 | 82 | 84 | 86 | ↗ | |
| 「江別市消防10か年アクションプラン」 防火・保安研修会等参加者の市民割合 | % | 23.4 | 26.7 | 26.8 | 27.2 | ↗ | |

2. えべつ未来戦略(消防本部関係分)

| 戦 略 | ■戦略プロジェクト 「関連事業」(担当課) |
|----------------------------|--------------------------|
| 戦 略 1 とものつくる協働のまちづくり | |
| 戦 略 2 えべつの将来を創る産業活性化 | |
| 戦 略 3 次世代に向けた住みよいえべつづくり | |
| 戦 略 4 えべつの魅力発信シティプロモート | |

3. 消防本部の資源

| | | 実 績 | | | 予算額 | |
|----------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 |
| 歳出予算額 (千円) | 一般会計 (A) | 223,415 | 280,230 | 248,021 | 259,265 | 423,622 |
| | 特別会計 (B) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 合計 (A+B) | 223,415 | 280,230 | 248,021 | 259,265 | 423,622 |
| 正職員人件費 (千円) | 人工 (a) | 129 | 129 | 130 | 130 | 130 |
| | 平均単価 (b) | 7,853 | 7,764 | 7,670 | 7,703 | 7,722 |
| | 人件費 (a×b) | 1,013,037 | 1,001,556 | 997,101 | 1,001,390 | 1,003,860 |
| 総 額 | | 1,236,452 | 1,281,786 | 1,245,122 | 1,260,655 | 1,427,482 |